

地質ニュース

昭和 51 年 4 月

第 260 号

1976

解 説	川崎地区水位・水質観測井について…………… ～その2 坑井編②～	福田 理 水垣 三 見 俊 松 弘	1
	筑波研究学園都市地域表層部の地質に関する1・2の知見……………	宇野沢 昭 磯 部 一 桂 島 洋 島 茂	10
トピックス	琉球列島の表層土壤に含まれるマンガン塊……………	大 城 逸 朗 野 原 昌 人	16
	ゆらぐ南紀の玉手箱…………… ～サラシ首 ゲテモノ化石 黒潮古陸のことなど～	甲 藤 次 郎	24
国際会議	東南アジア地域地質鉱物資源会議に参加して……………	名 取 博 夫	36
海外事情	ソ連のチタン鉱床……………	岸 本 文 男	48
	昭和50年度地質調査所の出版物……………		58
	学会掲示板……………		9

編集 地質調査所

表紙の写真

長部礫岩

この礫岩は 岩手県陸前高田市今泉長部から宮城県本吉郡唐桑町にわたる地域に分布し 古生界ペルム系に属する坂本沢層の上部から叶倉層の層準に位置する。この層準の上位には登米層が重畳する。北上山地では 長部礫岩は山崎礫岩や大洞礫岩と共に 薄衣礫岩として一般に知られている。礫質は花崗岩類 玢岩類 塩基性岩類 安山岩質岩類 凝灰岩 チャート 粘板岩 石灰岩などで 一般に円礫が多い。これらの礫の供給源については氷上山花崗岩説あるいは大陸説などがある。写真にみられる礫は細長く伸びて変形しているが 堆積後の褶曲運動や褶曲構造と密接な関係があると言われている。なお 長部の海岸に露出するこの礫岩は 近傍の広田花崗岩の熱変成をうけてホルンフェルスとなっている。ともあれ 東北日本のペルム紀に関する地史の解明のために 長部礫岩に関する多方面の研究課題が残されている。

(文 神戸信和 写真 正井義郎)

発行 株式会社 実業公報社